

日本における「赤ずきん」の再話絵本の内容構成に関する一考察 －全体像の分析を中心として－

呉 淑琴
(広島大学大学院)

I. はじめに

外国作品を再話する際、風土も社会背景もまったく異なることに對する何らかの配慮をすることはありうるし、必要な場合もある。このような外国作品の再話には、その時代による差異やその土地の社会的な、あるいは心理的な要求に合う文化的変容がみられることはすでに明らかにされている。そこで、外国作品を幼児のために再話した場合のその文化的変容には、その社会における子ども観や教育観も関わっているのではないと思われる。このような観点に立って、筆者(1992)は台湾の「赤ずきん」の再話絵本にみられる変容を検討した。ところで、台湾の「赤ずきん」の再話絵本には、日本版をもとにした作品が多く見られた。そこで、①日本では、「赤ずきん」が幼児のためにどのように再話されているか、②それらの再話の中で、どのような再話が台湾に取り入れられているか、③台湾に取り入れられた際、どのような削除・付加・改変が行われたかを検討する。「赤ずきん」の再話絵本にみられる文化的変容を検討することによって、台湾の子ども観や教育観がいっそう明らかになると考えられるからである。今回の発表では、主に②③を検討するための前段階である①を検討する。

西田(1974)、高橋(1989)は、日本における「赤ずきん」の再話絵本を検討し、日本の再話絵本では、ペロー童話あるいはグリム童話をもとにしたとされるものが多いが、ペロー童話やグリム童話に必ずしも忠実であるとはいえないと指摘している。しかし、これらの研究では、日本において再話された「赤ずきん」絵本の内容構成の全体像ははっきりと見えてこない。しかも、数多く出版されている再話絵本のうちのごく一部のものだけを対象としているので、分析対象を増やし検討する必要もあると思われる。

したがって、本研究では、以上の点を考慮しつつ日本における「赤ずきん」再話絵本の内容構成の全体像を明らかにすることを目的とする。

II. 調査方法

1. 分析対象

幼児(就学前と小学校低学年)向けの「赤ずきん」再話絵本、計44冊(発表当日の資料参照)。

2. 分析方法

(1)登場人物の主たる行為分析表の作成

登場人物の主たる行為は、物語の内容の核になっているといえる。したがって、登場人物の主たる行為の抽出は、物語の内容構成を把握するために有効であると思われる。また、日本では、ペロー童話とグリム童話が多く、再話絵本の元とされているので、「登場人物の主たる行為分析表」(表1)を作成するには、ペロー童話、グリム童話及び分析対象とする再話絵本に現われた異なる登場人物の主たる行為をすべて含める必要がある。

(2)各行為の再生率の算出

「登場人物の主たる行為分析表」と再話絵本に現われた行為を比較・検討し、各行為ごとに点数化を行なう。その際、文章によってその行為が再生されている場合に1点を、また、絵によってその行為が再生されている場合にも1点を与える。再生されていない場合は0点となる。その結果、得点は行為毎に0点から最高得点44点まで推移することになる。さらに、 $n/44$ (n は得点)より行為毎の文による再生率と絵による再生率をそれぞれ算出し、再生率60%を基準とし、全体的な傾向を考察する。

III. 結果と考察

本研究の分析対象となった再話絵本の多くは、グリム童話をもとにしてしていると称し、フランスのトゥーレーヌ地方の口承民話をもとにした絵本も一冊あった。また、これらの再話絵本にみられた登場人物の主たる行為を、表1に示している24個の主たる行為別、計63個の行為項目にまとめることができた。これらの行為の再生率を60%を基準として検討した結果、次のことが明らかになった。

1. 全体的傾向として、グリム童話の内容に近似

文によって60%以上再生された行為は1-1、2、3-1、4、5-7、6、7-2、8、9-1、10、14、15-1、16-1、16-2、20-2、22、24-1であった。そのうちの10、14の行為が文によって100%再生されていた。すなわち、分析対象となった絵本のどれにも文によって描かれている。一方、絵によって60%以上再生された行為は2、3-1、4、5-7、6、7-2、8、10、14、22であった。これらの文や絵によって60%以上再生された行為を読んでもみると、再話絵本の内容構成は全体的にグリム童話

の内容に近似していることが明かである。

2. 現代絵本作家によって行なわれた新しい試み

日本における「赤ずきん」の再話絵本には口承民話、グリム童話やペロー童話の内容が取り入れられている他にも、現代絵本作家によって行なわれた新しい試みもみられた。例えば、1-2の女の子に赤いずきんを作ったのがおばあさんでなく、おかあさんであったという内容があった。3-2のようにおばあさんの病気に触れず、ただのお使いに書き換えたものもみられた。また、5-1から5-7までにみられるように、森の中で狼が赤ずきんに害を加えようとしたかという点に関しては、5-2から5-6までのようなペロー童話やグリム童話からの書き換えや書き換えがあった。残酷すぎるため（波多野，1971）、9-3と15-2のようにおばあさんも赤ずきんも助かることにした試みもみられた。また、19-1から19-3までの狼のお腹を縫い合わせた行為は、ペロー童話とグリム童話にみられなかったが、絵本化された際に新しく付け加えた行為である。狼の結末については、20-1と20-3から20-8までのような異なるものがあった。また、狩人が狼の皮を持って帰ったという行為の書き換えとして、21-2と21-3のようなものがあった。なお、「赤ずきん」の主要なテーマとされている、赤ずきんによる教訓の習得に関しては、赤ずきんが自らの経験から教訓を得る代わりに、24-2、24-3のようにおかあさんやおばあさんが諭す形に書き換えたものもみられた。

本研究では、日本における「赤ずきん」の再話絵本の内容構成の全体像を、登場人物の主たる行為の文と絵による再生率から検討した。その結果、再話絵本には、口承民話、ペロー童話とグリム童話の内容が取り入れられている一方、それらと違った、現代絵本作家によって行なわれた新しい試みもみられた。しかし、再生率60%以上の行為を読んでもみると、再話絵本の内容構成の全体的な傾向は、グリム童話に近似しているといえよう。

引用文献

- 呉 淑琴 1992 「台湾の「赤ずきん」の再話絵本にみられる変容」『教育学研究紀要』中国四国教育学会 pp.319-324
- 高橋久子 1989 「『赤ずきん』絵本の再話過程における“配慮”のゆくえ」『グリム童話研究』大日本図書 pp.138-177
- 波多野勤子 1971 『小学館の育児絵本 赤ずきんちゃん』小学館
- 西田良子 1974 「「赤ずきん」考—考察と提唱—」

『日本児童文学研究』 牧書店 pp.356-387

表1 日本における「赤ずきん」の再話絵本の内容構成

登場人物の主たる行為	ペグ	文	絵
1-1 女の子はおばあさんから赤いずきんをもらった	○	*84.1	22.7
1-2 女の子はおかあさんから赤いずきんをもらった		2.3	0
2 女の子は赤いずきんをよくかぶるので、「赤ずきん」と呼ばれるようになった	○	*95.5	*95.5
3-1 おかあさんはおばあさんの病気のせいを赤ずきんに頼んだ	○	*97.7	*86.4
3-2 おかあさんはおばあさんの家までのお使いを赤ずきんに頼んだ		2.3	2.3
4 おかあさんは赤ずきんにお使いで注意すべきことを言い付けた	○	*90.9	*81.8
5-1 森の中で狼は赤ずきんを食べたかったが、きこりがいたのでできなかった	○	2.3	2.3
5-2 森の中で狼は赤ずきんを食べたかったが、きこりや動物達が助けにきたのでできなかった		4.5	4.5
5-3 森の中で狼は赤ずきんを食べたかったが、狩人が助けにきたのでできなかった		2.3	2.3
5-4 森の中で狼は赤ずきんを食べたかったが、うさぎやわなには足をはさんでしまったのでできなかった		2.3	2.3
5-5 森の中で狼は赤ずきんを食べたかったが、蜜蜂の群れに追いかけられたのでできなかった		2.3	2.3
5-6 森の中で狼は赤ずきんを食べたかったが、赤ずきんは逃げてしまった		2.3	2.3
5-7 森の中で狼は後で赤ずきんとおばあさんをともに食べようとした	○	*65.9	*63.6
6 森の中で赤ずきんは狼と話を交わした	○	*95.5	*93.2
7-1 赤ずきんは自ら花を摘んだり、遊んだりしながらおばあさんの家へいった	○	11.4	9.1
7-2 赤ずきんは狼の誘いにのり、花を摘みはじめた	○	*84.1	*84.1
8 狼はおばあさんの家へやってきておばあさんをだまそうとした	○	*90.9	*65.9
9-1 狼はおばあさんをひとのみにしてしまった	○	*95.4	45.5
9-2 狼はおばあさんをあたまたまから食べてしまった。そして、のこりを鍋に入れて火にかけた		2.3	2.3
9-3 狼はおばあさんを食べようとしたが、おばあさんは逃げだした		2.3	2.3
10 狼はおばあさんのまねをしてベッドに横になった	○	*100	*100
11 赤ずきんはおばあさんの家へやってきて、みょうな感じがした	○	54.5	50.0
12-1 狼は赤ずきんに肉（おばあさんの肉）を食べたり、葡萄酒（おばあさんの血）を飲んだりするように誘った	○	2.3	2.3
12-2 狼は赤ずきんにベッドに入るように誘った	○	4.5	2.3
13 赤ずきんはベッドに入ろうとした	○	2.3	2.3
14 赤ずきんはおばあさんの姿を見て驚いて質問した	○	*100	*97.7
15-1 狼は赤ずきんをひとのみにしてしまった	○	*90.9	54.5
15-2 狼は赤ずきんを食べようとしたが、狩人がやってきたのでできなかった		6.8	6.8
15-3 狼は赤ずきんを食べようとしたが、赤ずきんは口実を作って狼をだまして逃げた		2.3	2.3
16-1 狩人は狼のお腹を切り開いて赤ずきんを救いだした	○	*88.6	59.1
16-2 狩人は狼のお腹を切り開いておばあさんを救いだした	○	*93.2	59.1
16-3 狩人は狼のお腹をたたいた。狼はびっくりしたので口からおばあさんと赤ずきんが飛び出してきた		2.3	0
17-1 赤ずきんは石を持ってきた	○	50.0	20.5
17-2 狩人は石を持ってきた		2.3	0
17-3 おばあさんは石を持ってきた		0	2.3
17-4 赤ずきんと狩人は石を持ってきた		4.5	4.5
17-5 三人（赤ずきんと狩人とおばあさん）は石を持ってきた		2.3	0
18-1 赤ずきんは狼のお腹に石を詰めた		34.1	9.1
18-2 狩人は狼のお腹に石を詰めた		13.6	2.3
18-3 おばあさんは狼のお腹に石を詰めた		2.3	0
18-4 赤ずきんと狩人は狼のお腹に石を詰めた		11.4	2.3
18-5 赤ずきんとおばあさんは狼のお腹に石を詰めた		2.3	2.3
18-6 三人で狼のお腹に石を詰めた	○	13.6	0
19-1 赤ずきんは狼のお腹を縫いあわせた		4.5	2.3
19-2 狩人は狼のお腹を縫いあわせた		25.0	15.9
19-3 おばあさんは狼のお腹を縫いあわせた		13.6	6.8
20-1 狼は狩人に鉄砲で射たれた		6.8	4.5
20-2 狼は石の重みで倒れて死んだ	○	*63.6	43.2
20-3 狼は石の重みで池に落ちてしまった		2.3	2.3
20-4 狼は石の重みで井戸に落ちて死んだ		6.8	6.8
20-5 狼は狩人を見てびっくりして森へ逃げていってしまった		4.5	2.3
20-6 狼は赤ずきんをおいかけいていた途中、川で溺れ死んだ		2.3	2.3
20-7 狼は死んだ		2.3	0
20-8 数日後、その狼は森で再び赤ずきんに出会って、おばあさんの家まで赤ずきんをおいかけた。そして、おばあさんの家の屋根にのぼって赤ずきんをまちぶせていたが、おばあさんのわなにかかり、屋根から水おけの中に落ちてしまった		2.3	2.3
21-1 狩人は狼の皮を持って帰った	○	50.0	22.7
21-2 狩人はその狼を担いで帰った		2.3	2.3
21-3 おばあさんはおれに狼の皮で帽子と服を狩人に縫ってあげることにした		2.3	0
22 おばあさんは元気を取り戻した	○	*61.4	*75.0
23 三人でパーティーをした		11.4	6.8
24-1 赤ずきんは反省して教訓を得た	○	*70.5	0
24-2 赤ずきんは再びおかあさんに注意され、教訓を得た		2.3	2.3
24-3 赤ずきんはおばあさんに注意され、教訓を得た		2.3	2.3
24-4 読者への教訓	○	2.3	0

●: この内容は一冊にしか採用されていないので、一項目とする

ペ: ペロー童話; グ: グリム童話 *再生率60%以上

単位: %